

■ワークシェアリングとの出会い

たくさんさんの花の咲き誇る五月よりオランダに半年滞在させていただいた。最初の数日でまず驚いたのは次のことであつた。

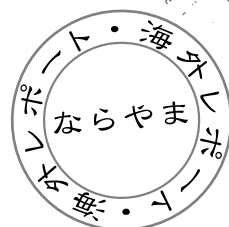
平日の午前中から、マーケットにかなりの人が集まっていることであつた。オランダでは、週二日、ほとんどの町の中心でマーケットが開かれる。土曜日に賑わうのは理解できたが、平日になぜこれだけの人が絶えることなく買い物に来るのか理解できなかった。この人達は、いつ働いているのだろうか？ という疑問が湧いていた。

ようやくリズムが整って、大学や研究所へ通い、研究をスタートさせると、次に驚いたのは、秘書さんの勤務時間であつた。午前中いた人が午後にはもういない。別の人が来ている。金曜日の午後は、二人ともいない。緊急に処理したいことがあっても無理。あらかじめ、早めにお願いしておかないと助けを得ることは難しい。日本と同じペースで仕事をしたいはいけないということをつくづく感じた。これが、あのワークシェアリングであることが次第にわかってきた。

しかし、慣れてくると、このシステムの良さもかなり見えてきた。仲良くなった秘書さん達に色々と尋ねてみると、様々な資格をもち、実に多趣味で生活を楽しんでいるのがよ

オランダのワークシェアリングと洗練された職業教育

教育実践総合センター・助教授
小柳和喜雄



研究所の秘書の方と

くわかった。仕事時間以外は、自分の時間に当てられるので、色々な試みができるようだ。

二人の秘書さんは、とても有能で、オランダ語のほか、三カ国語を話した。最初に会ったときに、どの言葉がお好みですか？ といわれたときのことをよく覚えていた。教育水準の高さがよく伝わってきた。

では、このような教育はどのような行われているのか？ ワークシェアリングを受けとめて、生活を楽しむ習慣はどのように育てられていくのか？

■オランダの教育制度

オランダの学校教育制度は、日本に比べるとかなり複雑な構成になっている。義務教育は、十一年間で（五歳から十六歳）、公立学校の他に、様々な宗教系の学校や、外国人学校があり、選択は自由である。

義務教育は、基礎教育（五歳から十二歳）と中等教育に渡っている。中等教育はかなり複雑だ。基礎教育最終学年時点で、多くの学校で実施される全国共通学力テストの成績と普段の成績をもとに、本人と保護者と学校が、どのコースに進むかを選択する。六年制の大学進学コースVWO、五年制の一般コースHAVO、四年制の中等職業準備コースVMBOの三つからである。最初の四年間は、どのコースも義務教育に相当している。

■工夫された職業教育

上級技術者、上級看護婦や小学校の教員の場合は、HAVOを終了して、高等職業学校（HBO）に進む。しかし、一般的には、VMBOを終了し、様々な資格の取得をして社会



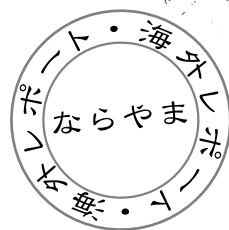
平日のダム広場

に出る生徒が多い。この両職業教育のメニューが、オランダの場合、かなり充実している。九十八年以来大きな改革が行われ、習得内容の質の向上・実用性に加えて、ブロックボックスといった発想で選択する側に柔軟なカリキュラム構成が検討されている。

このようにオランダは絶えず、次世代に、職業に自信と能力と責任を持たせて社会に参加させていく制度、またいつでも、誰に対しても、要求に応じて資質の向上を支援する職業教育の洗練した制度をもっている。ワークシェアリングが機能する一つの側面を見た気がした。

不思議な国—日本

日本語・日本文化研修留学生
ホフマン・ヨハンナ
(ドイツ ハイデルベルク大学)



■不思議がいっぱい

約一年間奈良で過ごした間、面白いことや、少し不思議に思うこと、また目からウロコが落ちることが何度もあった。

日本の日常生活で驚くことは数えきれないくらいあった。最初の日に寮の近くのスーパーへ連れて行ってもらった。海産物が多いとは思っていたが、売り場を見たら本当にびっくりした。タコ、イカ、あらゆる種類の魚がたくさん並んでいた。「一体これは何かな?」と何回も思った。少しずつ色々なものを食べてみたけれど、私の口に合わなくて、不思議な味がするものがたくさんあると実感した。

さらに、初めて奈良の三条通りへ行った時、どのレストランの前にもプラスチックの見本が陳列されていることや、店員さんがお客さんにとっても大きな声で、「いらっしゃいませ」「ありがとうございます」と挨拶をすることを奇妙に感じた。

二リットルのビール缶、アイスクリーム、たこ焼き、電池などが自動販売機で売られていることもその時まで知らなかった。

通り過ぎる人の顔を見て、仰天したこともあった。その人はマスクをしていたのだ。そのマスクは風邪を移さないためだろうと思ったが、本当にびっくりした。なぜなら、欧米でマスクをするのは手術する医者だ

けであるからだ。

日本人の若者のファッションはヨーロッパのとは随分違って、日本で流行っている多くの服は向こうでは誰も着ないと思う。

英語がプリントされた袋やTシャツなどに人気があることも初めて知った。ところが、その英語は多くの場合、意味のない文、あるいは文法的に誤った文になっているので、思わず笑ってしまった。

町でガムを食べていて、ガムの紙を捨てようとして、一生懸命ごみ箱を探すことになった。結局諦めてガムの紙を寮まで持って帰り、捨てたのだった。それはごみの持ち帰りという方法を初めて知る経験だった。

■良くも悪くも魅力ある国

冬になると、日本の冬がこんなに寒いのかと驚いた。気温が特に低いとは思わなければならないけれど、家の中では

寒気がするぐらい寒かった。対照的に、夏は厳しい暑さが長く続くのでつらかった。

ドイツの電車はよく遅刻するので、日本の電車がいつも時刻表通り出発・到着

することを不



留学生の友だちと



留学生実地見学旅行にて

思議に思った。また、電車の中で女の子が三十分以上お化粧するのを初めて見た時、とてもびっくりした。ドイツでは電車の中で寝る人は誰もいないので、日本で初めて電車に乗った時驚いた。日本人は電車に乗ったらすぐ寝てしまう!

日本の大学でも意外なことに出会った。ヨーロッパと比べて、日本の大学生はあまり勉強しない。学生が授業中寝ても誰も構わないらしい。「変だよ!」と何回も思った。

今まで述べたように、ヨーロッパ人の視点から見れば、日本は確かに不思議な国だと思う。ただし、このような不思議なことがあって日本

はある国と感じられることだろう。日本は私にとって充実した一年間を過ごし、各国の多くの友人ができた国として一生思い出に残ると思う。

「お寿司をたくさん食べてきてね!」と友達に言われた。それは九月末、私が日本へ来る直前のことだった。ドイツで日本のことが話題になると、例えば「日本で寿司が食べられている」という考えを思い浮かべる人が多い。また、「日本人は写真を撮るのが大好き」とか「新しい電気製品がいっぱい作られている」などの日本についてのイメージがよくある。

それまでハイデルベルク大学で日本のことを勉強していたが、日本へ来たことは一度もなかったのだ。日本が実際にどういう国が知らなかった。もちろん興味はあったので、日本に留学することを楽しみにしていた。